

- 進んで学び自ら正しく判断し、行動する子ども
- 人を大切にし、豊かな心をもつ子ども
- たくましく生きぬく子ども

城野

＝ 共 育 ＝

学校だより 学力特集号
平成29年11月6日

北九州市城野小学校
校長 藤井 創一

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	漢字の書き取りの問題は無解答のものも多く、課題がある。習った漢字は文脈に沿って確実に使っていくなどの指導を徹底していく。書く力を問う問題に課題があるため、生活や授業で書く活動を意識的に取り入れるなど、書くことを習慣化するための取組を行う必要がある。
国語B	平均正答率が昨年度よりわずかに上回った。目的や意図に応じて、自分の考えを書く力に課題がある。尋ねられている内容とその答え方を的確に捉え、適切に表現する力が必要である。
算数A	計算力については、朝の「算数タイム」の取組の成果があらわれているようである。数量関係や図形の領域についても少しずつ成果があらわれているが、さらに定着を図るために、チャレンジ・放課後教室などの補充学習で徹底していく必要がある。
算数B	活用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。日常生活の事象を割合を活用して解釈・判断することに課題が見られた。また、理由を記述する力をつけることが必要である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「国語が好き」「国語の授業の内容はよくわかる」という質問に対して肯定的に回答した割合は全国平均を下回った。国語に対する関心・意欲を高め、意欲的に学習に取り組めるように指導する必要がある。 ・「算数は好き」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」という問いに対し、肯定的な回答をした割合は、全国平均を上回った。これまでの計算領域の取組の成果が表れている。今後も子どもたちが「分かる・できる」と実感できるような取組を継続していく必要がある。 ・「自分には、よいところがある。」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。子どもたちの自尊心が高くなってきていることがわかる。 ・「授業の中でわからないことがあったら、先生に尋ねる」という質問に対し全員の児童が肯定的な回答しており、教師と児童の好ましい関係やわからないことを気軽に聞くことができる学級の雰囲気がつづられているといえる。 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(※60分以上行う割合)」という質問に肯定的な回答をしている児童がかなり少ない。今後も家庭への啓発及び連携を進めていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ◎ 主題研修(算数科)を中心にした授業改善を行う。 ◎ 学力向上のための特設時間における指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動の内容を下記のように設定し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る時間を確保する。 (月:音読タイム 火:国語タイム・読み聞かせ 水・金:算数タイム 木:読書タイム) ・放課後に補充学習を下記のように設定し、授業でつまづいた問題や、復習問題等を個別に指導する。 (月:1・2・5・6年、火:3・4・5・6年、金:1・2・3・4年) ◎ 過去問題、アンスシート、学力定着サポートシステム等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・単元末に学力定着サポートシステムの問題を位置付け、理解度を確認する。 ◎ 多層指導モデルMIMによる指導を行う。 ◎ 教師や友達の話聞いてメモをとったり、振り返りを書いたりするなどの「書く活動」を意識的に取り入れて、書くことを習慣化する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ◎ 基本的な生活習慣づくりに向けての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活のてびき」「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習や読書の時間、家庭学習のしかたや内容について指導し、家庭での学習習慣の形成を図る。 ・「家庭生活・家庭学習がんばり表」(家庭生活・学習アンケート)の実施(毎月第1週)する。生活習慣における基本的な考えを継続して伝えるために保護者への配布物の裏面に「学習・生活のてびき」の抜粋を載せる。 ・学級活動、保健指導等を通して、基本的な生活習慣の形成を図る。 ・「学習・生活のてびき」を活用し、入学説明会や学級懇談会、PTA総会等の機会に、家庭学習や基本的な生活習慣の重要性について周知し、保護者の理解を図る。 ・「家庭生活・家庭学習がんばり表」(家庭生活・学習アンケート)の実施(毎月第1週) ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知 <ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・学校HP等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
